

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月15日

協議会名:射水市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
海王交通(株) 株三島野観光 (有)小杉タクシー	「のるーと射水」北東	令和7年度新規事業のため、前回の事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	R7年度の補助対象期間はR7.4～R7.9(6か月)であるため、年間で目指す水準を設定している目標値についてはその1/2で算出。 ①利用者数 【目標】30,000人 以上 【実績】29,465人 →現時点では未達成だが、利用者数の増加する冬季(12月～2月)を考慮すると目標値の達成が見込まれるため、A評価とする。 ②収支差額 【目標】21,500千円 以下 【実績】19,578千円(達成) ③収支率 【目標】12.2%以上 【実績】18.2%(達成)	・R8年度以降は、利用者の多い冬季を含む通年で目標・効果達成状況を把握することとなることから、目標は達成し続けることができる見込み。 ・今後も、利用実態を踏まえ、運行台数や乗降場所等の見直しを行うなど、利便性向上策を講じ、利用者の増加に努める。 ・また、交通結節点やバス停等において、見やすく、分かりやすい時刻表や路線図の他、デマンド交通の利用方法等の情報提供を行い、利用を促す。
エムアールテクノサービス (株)	「のるーと射水」南東 車両購入を含む	令和7年度新規事業のため、前回の事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	R7年度の補助対象期間はR7.4～R7.9(6か月)であるため、年間で目指す水準を設定している目標値についてはその1/2で算出。 ①利用者数 【目標】35,000人 以上 【実績】29,638人 →現時点では未達成だが、利用者数の増加する冬季(12月～2月)を考慮するとともに、利用者の利便性向上のため、一部区域において、コミュニティバスの運行を再開したことから、コミュニティバスの利用者数も含めると目標値の達成が見込まれるため、A評価とする。 (コミュニティバス利用者(推計)を含めると34,834人) ②収支差額 【目標】24,000千円 以下 【実績】19,671千円(達成) ③収支率 【目標】12.2%以上 【実績】18.2%(達成)	・R8年度以降は、利用者の多い冬季を含む通年で目標・効果達成状況を把握することとなることから、コミュニティバス利用者数も含めると目標は達成し続けることができる見込み。 ・今後も、利用実態を踏まえ、運行台数や乗降場所等の見直しを行うなど、利便性向上策を講じ、利用者の増加に努める。 ・また、交通結節点やバス停等において、見やすく、分かりやすい時刻表や路線図の他、デマンド交通の利用方法等の情報提供を行い、利用を促す。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月15日

協議会名:	射水市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>射水市においては、旧JR西日本北陸本線を引き継いだいの風とやま鉄道や、高岡駅等とを結ぶ万葉線、また、富山駅等とを結ぶ民間路線バスなどにより、市外と結ばれている。</p> <p>市内では、地域内交通のほか、鉄軌道などの幹線との接続を担う、17路線のコミュニティバスが運行し、特に高齢者や学生等の交通弱者には、必要不可欠な交通となっている。</p> <p>しかしながら、コミュニティバスは、利用者の減少に伴う利便性や効率性の低下や、運転手不足などにより、安定的に運行を維持することが困難となつたため、利便性と持続可能性の両立を目的に、コミュニティバス等からデマンド交通「のるーと射水」への移行により、市民の生活に必要不可欠な交通を維持することが必要である。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、「のるーと射水」を確保・維持することで、地域公共交通を提供し続ける必要がある。</p>